

平成28年度

第2回地域家庭教育推進会津ブロック会議

- 1 開催日 平成29年1月25日(水)
- 2 会場 ルネッサンス中の島(会津若松市上町)
- 3 出席者 西会津町教育委員会教育長職務代理者 五十嵐 長孝(委員長)
(敬称略) 会津若松市父母と教師の会連合会副会長 松澤 典之
耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長 齋藤 信一
両沼地区PTA連絡協議会会長 五十嵐 稔
北会津小中学校長協議会会長 渡部 淳一
株式会社リオン・ドールコーポレーション人事部マネージャー 星 貴男
会津若松市教育委員会家庭教育担当 渡邊 真理
喜多方市教育委員会 平野 あゆみ
会津坂下町教育委員会家庭教育担当 高畑 ひろみ
県社会教育委員 佐藤 房枝
会津地区社会教育指導員連絡協議会 小野 修
福島県家庭教育インストラクターさざなみの会会長 増子 恵二
北塩原村学校支援地域本部コーディネーター 酒井 美代子
西会津小学校放課後子どもクラブ実行委員長 佐藤 恵子
柳津町放課後子ども教室コーディネーター 菊地 由枝
※(事務局)会津教育事務所 4名



4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

平成26年度までは、「メディアコントロールの推進」をテーマに協議して参りました。昨年度からは、そのフォローアップを行うとともに、「家庭における食育の推進」をテーマに会議を開催しています。



5 内容

(1) 「メディアコントロール推進」のフォローアップについて(主な意見)

- 利用することを前提に、効果的な使い方について考えることが大切である。個別の対応と、子どもに一番近い父親や母親から話してもらうことが一番効果的である。
- 放課後子ども教室では、ゲームだけでなく身近なもので遊べる活動を大切にしている。
- 会津若松市での「スマホ・携帯使い方宣言」「スマホ・携帯使わせ方宣言」については、配って終わりになりがちなので、いろんな機会に話したり、いろんなプリントにも載せたりしている。啓発活動は必要である。
- 携帯、スマホの危険性について、6年生の児童と保護者それぞれに警察の講話を実施し、特に保護者は目を覆いたくなる画像もあり危機感を持ち、効果的であった。

(2) 「親子の学び応援講座」「会津地区フォローアップ研修会」について

- 《実施報告》 ☆ [「親子の学び応援講座」](#)
☆ [「会津地区フォローアップ研修会」](#)

《各委員からの実践報告》

- 宮川小の講座（渡辺俊美氏）に参加。「弁当を作る機会を与えてくれた息子に感謝」という言葉に感動した。食べることは、ただ食べ物を口に入れる、栄養を取り込むだけでなく、人と人を結ぶことだと思った。
- フォローアップ研修で、赤ちゃんが手掴みで食べることの大切さを初めて知った。手から食べ物の堅さや味などを感じ、食への興味をもつということが分かった。
- 各公民館で「伝統行事や伝統食に関する事業」、小学校で「早寝・早起き・朝ご飯」など行っている。今後、保健課と連携しながら進めていきたい。
- 「駄菓子屋楽校」でこづゆづくりをした。化学調味料を一切使わず、干し貝柱と干し椎茸だけで味が出る。昔の智恵の素晴らしさがわかる。
- 野外活動での「同じ釜の飯」に意義がある。ご飯になるまで、みんなで協力していく。親が本気になると子どもが協力していく。
- H28. 11. 9「お弁当の日を広める会」結成（事務局：㈱リオン・ドールコーポレーション）。竹下和夫氏講演会の参加者からは「子どもにやらせてこなかった」という声が多かった。理由は、火や包丁を扱うので危ない、忙しくて教える余裕がない等。
「お弁当の日」実施の感想では、「子ども交流が増えた（親）」「大変さがわかり親に感謝（子）」が多かった。
- 「弁当の日」は、低学年は詰めるだけ、高学年は買い物してつくる等、学年に応じた取組があるが、家庭によっては大変なところもある。しかし、弁当づくりはいいと思う。



(3) 「家庭教育における食育の推進」中間とりまとめについて

《「中間とりまとめ（案）」に係る事務局説明》

- ① 「中間とりまとめ（案）」の内容について
 - 1 はじめに … 食育とは、食育推進年次計画
 - 2 平成27年度における主な取組
 - 3 平成28年度における主な取組
 - 4 論点整理 … ねらい、課題・具体的内容、解決策・具体的アプローチ、目指す方向性
 - 5 今後の取組
- ② 「あいづっ子『食卓週間』チャレンジカード（試行案）」について

《主な意見》

- 啓発は大切だが、本当に聞いてもらいたい家庭は来ない。啓発しても取り残される家庭がある。しかし、家庭にばかり押しつけられない。単なる体験ではなく公民館と連携して地域で手を差し伸べることが必要。
- 学校での調理実習をきっかけに、家で作ってくれた。誰かに食べさせたいという気持ちが生まれたのだと思う。親に「講演会に来てください」ではなく「親に子がつくったものを食べてもらう」のがよいのではないか。
- 「チャレンジ弁当」により、夕食をつくる子がずいぶん増えた。触れ合いの場となっている。家庭には直接働きかけられないが、フォローはしていきたい。
- ノーメディアは、「テレビを見るな」ではなく「何かをする」という形にしてはどうか。
例)「ノーメディアで一緒に夕食づくり」で食育とリンクさせる。
- 公民館事業の年6回の子どもクッキング教室。参加者を集めるのが大変だが、参加した子が、次回、友達を誘い増えてきた。火や包丁を使うので危ないという大人の思い込みで、はじめは5・6年対象としていたが人が集まらず、低学年対象にしたらくさん集まった。包丁を初めて使うことが感動につながっている。親子料理教室では、子どもが親を連れてきてくれる。事業を継続していくことで、子どもたちにとって「当たり前」になっていくことが大切。
- いかに親を巻き込んでいくか。気づきがないと変わらない。単発の事業や取組であっても、気づいて行動を変えていけば、有意義なことである。まずはやってみて、ダメならやめればいい。
- 解決策にPTA、企業、公民館等との「連携」とあるが、この「連携」はブロック会議との連携だけでなく、それぞれが連携する形も考えてはどうか。
例) 企業と公民館との連携 … ・公民館の案内チラシを企業で見ってもらう。
・企業にのぼり旗、食育週間には割引をする。 等
- 「目指す方向性 (P.4)」の中に、「自己管理能力」を入れてはどうか。また、「目指す方向性」とチャレンジカードとの整合性も図ること。
- ブロック会議として子どもの自己管理能力を高めるプログラムを作成し、「こんなのやったらどうですか」と提案するのはどうか。



(4) 確認事項 (委員長)

- 「チャレンジカード」は、食育月間の6月に試行的に取り組む。
- 「メディアコントロール推進」については、引き続き取り組んでいく。
- 「中間とりまとめ」については、今日の意見を参考にまとめを行うが、他に意見があれば2月8日までに事務局に電話、ファックス等で連絡する。修正案は、全員に集まって見てもらうのがよいが、それはむずかしいので、事務局と委員長で詰めるということによいか。
- 「中間とりまとめ」が確定したならば、今年度中に会津教育事務所 HP 等にて情報発信する。

(参加者の了解を得る)

